

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

調査結果の概要及び教科の課題等(○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

全国・県と比較して $\pm 5\%$ の差が見られる内容について中心に分析し、今後の指導計画や授業づくりに活用する。

【 国語 】

《言葉の特徴や使い方に関する事項》

- 「短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する」問題は、県・全国平均より 14 ポイント高い結果であった。
- 漢字を書く問題は県・全国平均を 12 ポイント下回る結果であった。漢字を書く機会を設定し、漢字を使う場面を意識して増やしていく。

《情報の扱い方に関する事項》

- 「本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する」問題は、県・全国平均 7 ポイント上回っており、「具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる」ものであったので、後述の「生徒質問用紙 国語に関する質問」の回答と結びつくものであった。

《我が国の言語文化に関する事項》

- 「行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する」問題は県・全国平均 6 ポイント上回っていた。

《話すこと・聞くこと》

- いずれも県・全国平均と同程度の正答率であった。

《書くこと》

- 「表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する」記述問題については、県・全国平均より正答率が上回っている一方、「無回答」が 20% と多い。よって、記述をする問題をこれからも授業や試験で取り上げ、粘り強く記述する指導をしていく。

《読むこと》

- いずれも県・全国平均と同程度の正答率であった。

《生徒質問紙 国語に関する質問》

- 「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解している」に対し、県・全国平均よりも 15 ポイント以上高い回答であり、特筆すべき点である。自分の力を肯定的に捉えていることがわかる。
- 国語の授業がわかり、好きだと思っている生徒が多い一方で、「国語の勉強が大切だ」と考える生徒は、県・全国に比べると 2 ポイントほど低かった。よって、国語の学習の意義と他教科とのつながり、社会に出ても役立つものであるなどを授業のなかで伝えていく。

【 数学 】

≪数と計算≫

- 計算の技能は全国・県と同程度であった。
- 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」問題では、無回答率が高く、正答率も低かった。文章と図から、その状況を読み取って、式と言葉で証明する問題では文字式が意味することを粘り強く考え、2の倍数であることを文字式で表現することができていなかった。

≪図形≫

- 三角形の合同を基に証明する問題では、全国・県と同程度の正答率であった。

≪関数≫

- 一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解することは、全国・県を上回っていた。
- 灯油を使い切るまでの「強」「弱」のそれぞれの場合で変わる使用時間の違いについて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが、全国・県のどちらよりも10ポイント以上低かった。数学と身近な事象とを関連付けて説明していくことが課題である。

≪データの活用≫

- 簡単な場合について、確率を求めることはできていた。
- データの活用の問題では、四分位範囲の意味が理解できていないと解けない問題において、全国・県よりも15ポイント以上低かった。決して難しい問題ではなかったが、正しく用語を理解していないことが分かった。思考判断に至るまでの必要な知識の定着の確認が必要である。

≪生徒質問紙 算数に関する質問≫

- 数学の勉強は意欲的に取り組んでいることが質問紙から読み取ることができたが、将来、社会に出たときに役立つかという質問に対し、「どちらかといえば役立たない」という回答が多く見られた。身近なことで役に立つかが分かりづらい中で、数学を学んでいくことが、様々なことを多角的に捉える思考の仕方や論理的な考え方のもとになっているということを伝え、自信をもって学びを続けてほしいと伝えたい。

【生徒質問紙の結果 特徴的なことや課題と考えられること等】

- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますかという問いに対しては、「1. 当てはまる」が最も多く、52.1ポイントで、全国平均の44.2ポイントよりかなり多かった。
- 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますかという問いに対しては、「1. 当てはまる」が最も多く、36.6ポイントで、全国平均の28.7ポイントより多かった。
- 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますかという問いに対しては、「1. よくある」が最も多く、62.0で、全国平均の44.6ポイントを大きく上回っていた。

- 普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますかという問いに対しては、「1.4時間以上」が最も多く、31.0ポイントで、全国平均の18.2ポイントを大きく上回っていた。平日の多くの時間を、携帯電話やスマートフォンを使って過ごしていることがわかる。

◎調査の結果を受けて、今後の指導改善に向けて学校として取り組むこと

調査の結果から、おおむね生徒の自己肯定感が高いと思われる。また、教員との信頼関係もおおむね築けていることがうかがえる。これからも、生徒の主体性を尊重し、生徒の自己肯定感が高まるような教育活動を心がけていきたい。また、日常から教員と生徒とのコミュニケーションを大切にし、些細なことでも教員に相談できる関係づくり、環境作りに努めていきたい。